

日本
洗滌

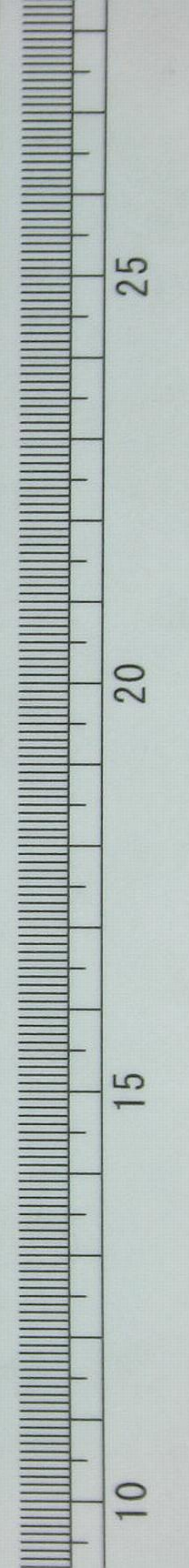
國

字

文
字
号

泉
堂
撰

柳田文庫
文庫11
A1426



文章1
A/426

無燭ノ	集會ノ	劇場ノ	淑女ノ	婦女ノ	商貨ノ	茶亭ノ	門頭ノ
章燈ノ	遅緩ノ	不潔ノ	疎交ノ	尿尿ノ	二價ノ	輕薄ノ	尿器ノ
絃歌ノ	野女ノ	街路ノ	夏日ノ	髮鬢ノ	飲食ノ	貨車ノ	家内ノ
活潑ノ	雜臥ノ	狹隘ノ	半衣ノ	異様ノ	強賣ノ	迂轉ノ	暗黒ノ
招牌ノ	無用ノ	混堂ノ	會場ノ	座上ノ	車下ノ	藝妓ノ	帽子ノ
大掲燈ノ	二層樓ノ	汚穢ノ	喧鬧ノ	鞋履ノ	粗暴ノ	跋扈ノ	迂冠ノ

陋習改革

國會の浮説をきいて
 超え海を渡る知る里
 人知る海を渡る知る里
 男その女卑く倒るれど
 媒人の手す枝はよ
 金の力でさるふる
 山野の隅のことよ
 農夫の勤めを思

今もまだ大略をきいて
 悪風俗をきいて
 或は日本のあつて
 是れ同様のの出て
 思ふ所く城の集
 真の力を排ひき
 結ぶる業耕す
 市区格由の改訂と

改められて増分の	悪手なるといふ道に
道をひいて平均の	権利を備へ今の代
先一歩の改かくな	連の地をえりよ
其右人のそのふ積ま	暗夜を道を行来で
心まひいふふち	なきども今い進こま
何の元んかやま	やん十者と見まふ
推乃一即座は同と	見送うなまし生傳
又人力車夫のま	志はん元元の検査そ

孫がも若も数多あり	我月一をくらすのに
學の海の子徒層を	學の汗をかか積ま
今の冊る業を捨	長命あるがや一介
權輝人きてそ通	男女同権を得て
娼妓勸をせまふ	祝をほごくむ法もあ
昔と違ひ今の世ハ	親子數百里路も
電燈を車で走	同居をまらるも同居
樹々便利の法代	河内双子いよあて

ワボニニテル作
東盤とて同
遊ぶを便利と思
義かとも其通
便利と思ふ持
案の入れもか
是三徳と申
洒落の便所も

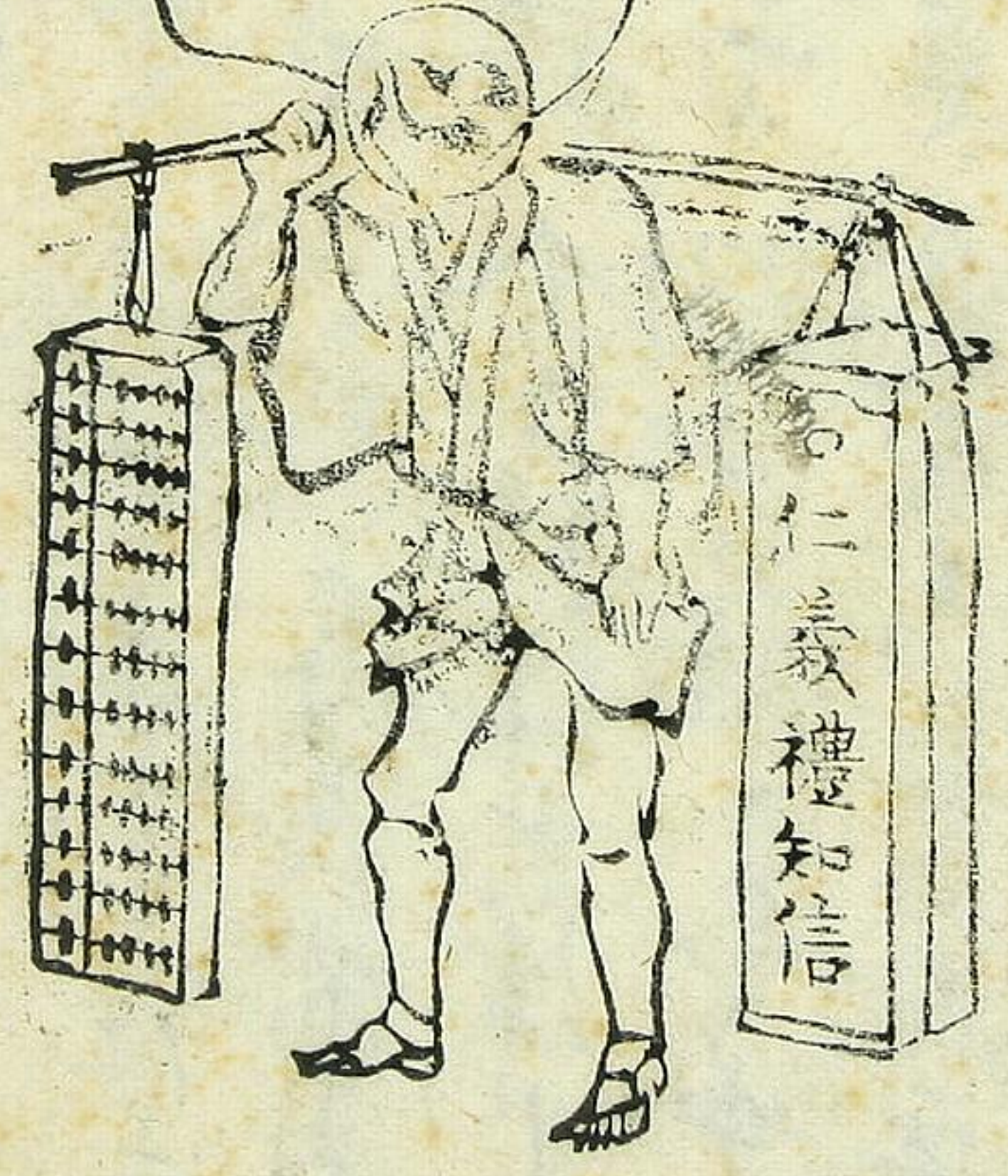
孫孫を撰る世話
道をいす被
又日用の家
土付居くま
少々の支取
練尾で假
又も落葉の
家門は客の便所も

おければ客の
いろく仕をも
産上は年高
兎角湯堂を
浴を仕るま
外國人の遊
内輪をよま
思ひぬ活の

又此の便所も
是方の注意
味増と床と
きれのすす
今も輪端を
双方の語も
是を言ひの
指折かそ

明治二十年二月廿六日御届
同 年三月十八日出版

おきたら
こめりな
あまも
しるい
あま



大阪府下西成郡難波村
字千四百八十五番地
編輯兼出版人 稲田元七

風雨軒